



ヤクカルカの西 標高 3640m

幸せの国・ブータンの メリーポピーたち

14

松永秀和

メコノプシス・ワリッキー・フスコ＝プルプレア

チヨモラリトレッキングを終え、18日ぶりにティンプーに戻る。一日休養して、最後のトレッキング、セレ・ラに向かった。今回は旅行社の社長ソナム氏夫妻も参加し、まるで慰安旅行のようだ。夫人は初めてのトレッキングで、新品のウェアを着ている。ちなみに彼女はベトナム人で、ソナム氏とはバンコクで出会い、恋に落ちたという。今では会社の経理を任されていて、実質的な経営者だ。車の中でも、社に残ったスタッフに携帯電話でときばきと指示を出していた。

車はティンプーパロの高速道路を西に向かうが、2日前の豪雨で至る所が崩れが発生。この豪雨でトラックが橋から転落し、死者も出たという。昼前、セレ・ラ登山口に着く。豪雨で橋が流され、登山道にも激流が走っている。馬方が「これでは登れない」と言って、帰ってしまった。仕方がないので、翌日帰りで登ることにして、近くの道端でテントを張る。その晩は、持ってきたビールやアラで大宴会となった。翌朝、水が引いた沢沿いの道を登り、1時間ほどで峠に到着。さらに南の尾根に登る。途中、15cmほどの足跡を見る。豹の足跡だという。尾根はなだらかなヤクの放牧地になっていて、ワインカラーのメコノプシス・ワリッキー・フスコ＝プルプレアが点々と立っている。そして、その向こうにはM・パニクラーの群落もゆっくと花々を眺める。そして、M・ワリッキーの根元に母の最後の遺灰を納め、峠を降りた。